

日蓮大聖人御書全集

みよういちあまごへんじ

妙一尼御返事

新版
1693

みよういちあまごへんじ

妙一尼御返事

ぶんえい

ねん

文永10年('73)

がつ

4月26日

にち

52歳

さい

妙一尼

みよういちあま

たきおうまる

けんし

滝王丸、これを遣使す。

むかし こくおう

じしん

しょうぎ

せんざい

あいだ

あしせん

昔、国王は、自身をもつて床座となし、千歳の間、阿志仙

つか たてまつ

みようほうれんげきよう

ごじ

なら

たも

いま

しやくそん

に仕え奉り、妙法蓮華經の五字を習い持つ。今の釈尊こ

いま

せしゆ

みよういちびくに

ひんどう

み

たす

れなり。今の施主・妙一比丘尼は、貧道の身を扶けんとて、

しょうどう めい

つか

ほけきよう

ぎようじゃ

つか

たてまつ

小童に命じてこれを使わし、法華經の行者に仕え奉る。

かれ こくおう

ひせん

かれ

くに

おそ

な

ちよつかん

彼は国王、これは卑賤。彼は国の畏れ無し、これは勅勘

み

まつだい

ぼんによ

かれ

かみだい

しょうにん

こころざし

の身なり。これは末代の凡女、彼は上代の聖人なり。志

すで かれ りようか

らいかなん さいとう

さいとう

既に彼に超過せり。来果何ぞ斉等ならざらんや、斉等なら

ざらんや。

べんどの ことし

かまくら

じゅう

しゅじょう

きょうけ

弁殿は今年は鎌倉に住し、衆生を教化するか。

きようききようきんげん

恐々謹言。

うづきにじゅうろくにち

卯月二十六日

棧 敷

にちれん

日蓮

かおう

花押

さじき

みよういちあまごぜん

妙一尼御前